

上場株式におけるインパクト投資とインパクト志向

林 寿和 CMA

目 次

1. はじめに
2. 上場株式投資におけるインパクト投資の拡大とインパクト志向の高まり
3. 上場株式投資におけるインパクト創出とエンゲージメント
4. インパクト測定・報告と運用機関・金融商品に対する情報開示規制等の動向
5. 終わりに

本稿は、上場株式投資においてインパクト創出を能動的に目指す投資に焦点を当てる。具体的には、インパクト投資と銘打って行われている投資に加えて、機関投資家によるインパクト志向の高まりを背景に、インパクト投資とは必ずしも銘打たないが、広義に捉えればインパクト投資の一種とみなし得る投資が増えてきていることも踏まえて、これらを総体的に捉えて、その潮流を考察する。加えて、上場株式への投資における追加性をめぐる議論や、機関投資家によるインパクト測定・報告およびそれに関連する情報開示規制等の動向についても述べる。

1. はじめに

サステナブル投資の拡大が続いている。2021年7月に公表された調査報告によれば、世界の運用資産に占めるサステナブル投資の割合が2020年時点で35.9%に達していたことが明らかになった (GSIA [2021])。かつては金融資本市場の

中でニッチな存在だったサステナブル投資は、今日では、少なくとも数字上はニッチな存在ではなくなっている。

金融資本市場におけるサステナブル投資の存在感が増す中、サステナブル投資の「付加価値」をめぐる議論が高まってきた (注1)。こうした議論の根底にあるのは、「サステナブル投資は、そう



林 寿和 (はやし としかず)

Nippon Life Global Investors Europe Plc, Chief Director。2005年京都大学工学部卒業、2010年エジンバラ大学大学院修了 (経済学修士)、2011年ケンブリッジ大学経営大学院修了 (技術政策修士)。文部科学省、(株)日本総合研究所を経てニッセイアセットマネジメント(株)入社、2022年3月より現職として出向中。ESG・インパクトに関するリサーチなどに携わる。最近の主な論文に、「機関投資家による投資ポートフォリオのカーボン分析の潮流と展望」(『環境経済・政策研究』14(2)、2021年9月)や「機関投資家による集团的エンゲージメントはどのようなときに成立するのか：ゲーム理論を用いた理論的考察」(『日本経営倫理学会誌』27、2020年3月)がある。